

特集 旅遙かなり ～創立40周年目の坂道に踏み込んだ～



④ 町が立てた須賀山城址入口の看板。
⑤ 柘沼水田、なずな工房から須賀山城址遠望。

いにしえ人の声を聞く…

【須賀山城址公園化事業】

東庄町根方は真ん中を
県道、旭笹川線が走る。片
方は小見川町との境界をな
し、椎の木を主木に帯状の
山。東福寺を過ぎると小見
川町岡飯田区に抜ける坂道
に差し掛かる。その峠に北
総育成園は立地。遙かに大

利根、鹿島灘を遠望する屋上からの
眺めは素晴らしい。夜景はさらに素
晴らしい。筆者は日本三大夜景の一
つに数えている。
遙か昔、鎌倉時代、この丘の上に
砦が築かれた。須賀山城がそれであ
る。北総がこの地にお世話になった
昭和49(1974)年。当時、須賀

山城址と北総は地続きで鬱蒼とした
森を成していた。その昭和49年のあ
る日、筆者は利用者の福田さんとこ
の森を探検した。園の裏から道無き
森に分け入った。と、程なく垂直に
3m程の落ち込みに出くわした。下
りてみると凹地がずっと向こうに続
いている。「どう考えても自然の凹
みではない」。地元職員の土屋敏男
さんに聞いてみた。「それは須賀山
城の空堀り跡だっべ」という答え。
昭和50年代の日本は高度経済成長
の時代。港湾の拡張、工業地帯の造
成、住宅地の確保の為に山砂が大量
に必要で千葉県はその格好の採取地
であった。大型ダンプが我がもの顔
にゴウゴウとエンジン音で行き交っ
た。香取郡のこの辺りもその通りで、
園の裏山もその山砂採りの為に大き
くえぐり取られてしまった。裏山の
空堀りも消えて無惨な荒涼とした砂の
崖にさらされた当園であった。が、
後年、船橋市が擁壁工事。何とか面
目を保った。
十年一昔。雲が流れるように北総
の上を過ぎ去った三昔。再び須賀山

城址と関わることになったこと。こ
の地でお世話になる中で利用者も
段々、働くこと生きることの地方
をつけた。特に林産班は椎茸原木
2万本の仕事をやるまでになる。砂
採りの難を逃れた一山をお借りして
椎茸の自然発生貯木場とした。その
山中には砂取りで消えた空堀り一対
であった須賀山城址の空堀り、土塁一
の郭、二の郭と思しき縄張りが篠竹
のジャングルに覆われながら明確に
現存していた。砂採りで消えた部分
も含めると大がかりな縄張り。東某
氏の当時の権勢が偲ばれる。数年前
のこと、その空堀り土塁を確認でき
る場所に東庄町教育委員会が「須賀
山城址」の案内板を設置した。その
案内板を頼りにこの山に踏み込む人
がいる。それは林産班椎茸原木置場
を通り抜ける細道の先。そして「残
念だねえ。荒れてしまっつて」と声を
掛けてきた。
北総は今年、この地にお世話に
なつて40年。その記念事業として、
この須賀山城址再生事業に取り組む
ことにした。早速、地主さんに篠竹
伐採許可を得た。東庄町教育委員会
も「そうしてもらえれば有り難い」
とのお返事。この4月に男職員10名
で1回目の篠竹伐採。「こりゃーた
いへんだ」の悲鳴が聞こえた…。
草刈りの音に混じって、いにしえ
人の声がかすかに…。(武井)



発行日 2013. 5. 23
第 222 号
(第 1 回発行)
1974年4月1日
発行所 北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎ 0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが
新しくなりました！
施設の概要や理念、利用者の様子、
園長からのお知らせ等、盛りだくさん！
ぜひアクセスしてみてください。
ホームページアドレス
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>
Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

地域支援事業 25

副園長 白樫 久子

今年度も「地域支援事業」「短期入所事業」「日中一時支援事業」「学生実習生受け入れ」を責任を持って行っていく。平成二十四年度四月から自立支援法及び児童福祉法の改定により、障害者サービスを受ける者は全て「サービス利用等計画書」作成が必須となった。既に数十年も入所利用している人も平成二十七年三月までに必要となる。昨年度「特定相談支援事業者(計画)」の指定と「一般相談支援事業(地域移行)」の指定を受けた。これは、絵鳩課長・菅谷主任が「相談支援専門員」として仕事を兼務する。まだ国も市町村も手探りでありよく見えない状態である為、急がず状況を見て対応する。サービス利用等計画については、東庄町内の相談事業所は現在北総だけとのことなので北総・なずな・自然以外に今後在宅からの依頼があるだろう。

「日中一時支援事業」は、特に児童の土日や長期休暇時は希望が多く、事前調節は今年も絵鳩課長にお願いする。篠塚さん金子さん信田さんにも保護者対応や新職員へ

の指導等更に仕事をお願いする。普段からの保護者との付き合いが大切で、現場の対応職員がいつも笑顔で明るく対応してくれている事がそれぞれの信頼関係に繋がっている。

「短期入所」は、昨年二十四年度は工事や引っ越しの関係で多くは受け入れられず、実績日数は1213日と二十三年度を下回った。現在長期利用はOTさんMMさんである。今年度も週末利用の方が多く定期的に入る。空床利用も含め、利用者の相性や全体の動きを調節しながら部屋が可能な限り受け入れていく。新棟への引っ越しもあるので昨年度と同数程度の受け入れになるだろう。毎月の予定や本人の様子、利用者同士の関係についても配慮して情報を流し、今後も安全面に十分配慮しての調節をしていく。日中一時支援・短期入所事業の実績は、支援職員ばかりでなく事務・給食他全職員で丁寧な仕事をしてくれるからこその実績である。こうした外部の方や保護者から学ぶ事が多い。経営面の収入だけでなく、我々職員

が視野を広げ、力を付ける為にも重要な事業である事を意識して、今年度も地域支援事業を展開していく。

「学生の実習受け入れ」は、十一校三十六名の受け入れを予定している。未来を背負う学生を受け入れる事で自分の仕事を見直す機会にもなる。一人一人何かを見つけ、実習を終える事ができるように指導していく。また実習生は受け入れ期間だけの受け入れではなく、将来職員採用できる視点を持って対応し、園長からのご指導の時間も頂いていく。改めて担当者全員で受け入れについて確認し、実習評価表を提出するまで丁寧に関わっていく。全職員にお世話になります。今年度もよろしくお願いします。



▲日中一時支援事業(土・日中心に受け入れ)。その時間はバランスストーンで遊んだり、絵を描いたり思い思いに過ごす。

太田川のほとり

(118)



今日は4月6日(土)。毎年皆が楽しみにしている地元・笹川諏訪神社の春季大祭の日だ。足腰が丈夫な方は、神社までの約2kmの道のりを歩く。道中、足元に咲いている可愛らしい水仙やタンポポの花を愛でたり、水が入りキラキラ光る田んぼを見て「もうじき田植えが始まるね」等楽しくおしゃべりしながら歩く。神社が近くなると軽快な太鼓の音が聴こえ、地元の方の姿も多くなってきた。まずは皆で伝統芸能の神楽を見学。代々地元の皆様の手で大切に受け継がれてきた神楽を一緒になって見学できることはとても有り難いこと。音楽大好き!北総芸座連では鈴を担当する吉井さんは、神楽のお囃子に自然に体が動き出す。地元の皆さんもそんな吉井さんを優しく見守ってくれている。神楽見学が終わったら、それぞれ好きなお店へ。これもお祭りの楽しみだ。

今日、この日しか見る事ができない利用者の晴れ晴れとした顔、そして言葉に触れ、今年も一期一会の心を大切に、この人たちに寄り添っていききたいと、改めて思った春の一日だった。

(絵鳩)

千葉県知的障害者福祉協会 主催の研修に参加して

研修報告①

報告者 絵鳩 典子

去る2月15日、千葉県知的障害者福祉協会主催の研修に参加させて頂きました。講義内容は社会福祉法人・

京都ライフサポート協会「庵」理事長 樋口幸雄氏による「行動傷害への対応と身体拘束・支援と虐待防止法の間に立って」と、日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授 久田則夫氏による「デキる福祉のポートになる現状打破の仕事術」でした。どちらも実践に基づいた現場目線の内容で、プロである職員としての資質を問われるものでした。今回は久田氏による講義を受け、今、北総にとって何が必要なのか、改善すべき点は何なのかを深く考え、明日から実践として取り組む為のポイントをまとめ、研修報告として掲載させて頂きます。



日本女子大学教授 久田則夫氏が示す「時が止まった(成長しない)職員」の類型とは？

(それぞれの特徴は一部抜粋)
①セルフマネジメント不足職員 (やる気は「口だけ」職員)

・感情が上手くコントロールできず、感情丸出しの業務スタイルに陥っている(イライラした状態で働く。イライラを利用者や他の職員にぶつけるかのような言動を示す)。

②投げ遣り、あきらめ職員

・ちよつと努力すればできることがあるのに、「そんなことやったって何の意味もない」と言っていて、できることをやろうとしない(完璧主義職員と表現することもある)。

③オイソガ氏職員

・心理的に負担の少ない仕事、あるいは利用者から離れて行う仕事を優先する傾向が強い。

④独断専行職員

・同僚、後輩、先輩などと意見調整もなく勝手な動きをしているのに、仲間がついてこない。「職員がついてこない」「みんなが私のことをわかってくれない」などといった批判を始める。

⑤若年性楽隠居症候群職員

・「もう私は十分に経験を積んだ」「学ぶべきものはない」「あとはみなさんでがんばってください」など

とご隠居さんの言動を示す人(年齢や経験年数にほとんど関係なし)。

⑥当事者意識欠落職員 (すべては人のせい職員、すべては上司のせい職員、すべては制度のせい職員)

・制度がダメだと言いつつ、感情レベルで言っているだけで、どこがどうだめなのか、説明できない。どう改善すべきか、提案できない。

⑦気づき力欠落職員

・自分が今、何をすべきか、自分で気づけない(指示がないと動けない)。

・ちよつとした心がけで、利用者の空間を快適にできるのにそれをしようとしな(ゴミが落ちていても拾おうとしない)。

⑧陰で文句を言うばかりで行動を起こさぬ無責任職員 (評論家のような口調でしゃべるケースもある)

・「評論家職員」と呼ぶケースもある。職場内の出来事、課題や問題について、陰であれこれと批判したり、評論したりするのは得意だが、実際に行動を起こさない。

⑨勤務時間休憩職員

・勤務時間中なのに休憩しているとしか思えない行動を示す。
・利用者ほったらかしで、私語に興

じる。
⑩権利侵害職員
・利用者の権利を侵害する行為に手を染める職員。

・権利擁護という言葉は知っているが、どのような権利を実際に擁護するのか理解していない職員。
・指示語や叱責語が得意。



これら10タイプの職員に自分自身がなっていないか、職場としてこういった危うい傾向を示していないか、常に自己の内省を継続していかなければならないと痛感した。それは偏に私たちが仕事として支援する相手が物言えぬ知的障害者であるからだ。どんなに職員がいい加減な事をして文句を言えず、その状態に甘んじてくれる事に普段からどれだけ危機感を持っているだろうか？身近な例として「さん付け呼称」がなかなか定着しない事もその表れではないだろうか？職員が利用者を「ちゃん付け」で呼んでしまう言い訳として「親しみを感じているので」と挙げるとすれば、それは違うと久田氏は言う。「親しみ」のベクトルは利用者から職員に対して向けられるものであって、私たち職員からではないということ。もう一つの言い

訳としては「ちゃん付けで呼んだ方が反応がいいので」というもの。知的障害者は「経験不足症候群」であり「さん付け」で呼ばれた経験が少ないだけであって「ちゃん付け」を気に入っているのではないと言う。久田氏のこの言葉はいつも北総で武井園長が我々職員にメッセージしている言葉と重なる。「さん付け呼称」はもちろんの事、朝、出勤して利用者に挨拶する時「おはよう」ではなく「おはようございます」と言うことに園長はこだわる。これらを意識し実行する事は「今日も一日、この人達と謙虚に向き合い良い仕事をすろぞ」という我々職員の心構えの表れであるからだ。併せて職員一人一人が「一輪の花」「動物を大切にすろ」「利用者の顔を立てる、立つ瀬を残す、折り合いをつける」ことの実践者になる事で、物言えぬ利用者の心の声に寄り添う支援が展開できる。久田氏の講義、そして北総の理念は、我々の職場はいつでも権利侵害や身体拘束、虐待といった状況に陥り易いといった怖さがある一方で、職員一人一人の心がけやプロ意識で本当の意味で利用者主体の支援を展開できる事に改めて気づくものであった。「福祉は易きに流れやす

い」この言葉を心に刻み、自分自身の内省を常にしながら、北総という組織が健全なものになるよう、メンバーシップ意識を持っていきたい。本当に勉強になった研修会でした。

研修報告②

報告者 信田 陽子

久田先生のお話は分かり易く私の心に入ってくるものでした。そして「納得力」のある話でした。利用者支援の仕方、後輩職員を育てる為に自身の心の姿勢、色々な事が改めて掘り起こせたようでした。この人達を大切にすろ、この仕事は毎日の小さな実践の積み重ねだと思えます。ですが、自身のちよとした心の油断や投げやりの所作で1日であつという間にひっくり返ってしまふと思えます。

今回研修に参加させて頂き、久田先生の不転の決意を持って利用者本位のサービスを担っていく！との決然たる姿勢と行動力を示す7つの勇氣はとても印象に残っています。

- 7つの勇氣とは：
- 1、常識を疑う勇氣
- 2、新しい事にチャレンジする勇氣
- 3、組織内に改めるべき点がある場合、声を上げる勇氣（単なる批

判者になつてはいけない、根拠を示し問題解決の方向性を示す）

- 4、自分の力や働きぶりを謙虚な姿勢で受け止める勇氣（自信過剰にならない、謙虚な心、学び続ける姿勢）をもつ）
- 5、失敗を直視し、そこから教訓を学ぶ勇氣（失敗は実力を身につける大きなチャンス！と捉える）
- 6、良心に従つて行動（正しい支援）を推進していく勇氣）
- 7、改革・改善・組織の発展に関わる勇氣（当事者意識をもって組織の改革や改善に関わっていく勇氣。変化を推進する勇氣。傍観者ではないけな）

この7つの勇氣を職場の仲間と共有し、その初心を持続していきたいと久田先生のお話を聞き感じました。自分がいかに行動し、対応していけるのか、よりよい施設・職場へと繋がる礎の一つになれるよう研鑽を重ねていきたいと思えます。



桜散り

タンポポ咲いたら

ドクダミだ

杉本

村議会だより 108

今年も新年度がスタートした。今年、男性2名、女性3名の新職員が入職してくれた。園庭のいつもの枝垂れ桜の下で、その新職員を囲んで記念撮影を行うのが4月1日、創立記念日の慣例だが、今年はずう。何が違ふと言え、枝垂れ桜があつたところが新バリアフリー棟が建設竣工したのだ。40年間北総を見守つてきてくれた桜の生まれ変わりのような白亜の新棟が目眩しい。これについては「いつか、いつか。」と完成するのを楽しみにしていた利用者がほとんど。利用者全員の内覧会も4月6日に行なつた。「早く入りたいい。」「TVが大きい。」この部屋がいい。」などと利用者の思いは、もう新棟暮らし。この新棟の暮らしについては、改めて皆様にご報告致します。

北総の里の25年の利用者の暮らしは、どんな展開をしていくのでしょうか。そして、村議会活動が仲間として助け合う要になれたらと考えています。

このコーナーは、今まで猪田が担当していましたが、今号より主として菅谷が担当致します。小さなコーナーですが重荷を預かつた気分であります。 (菅谷)

「働くこと生きること」の軌跡を辿る

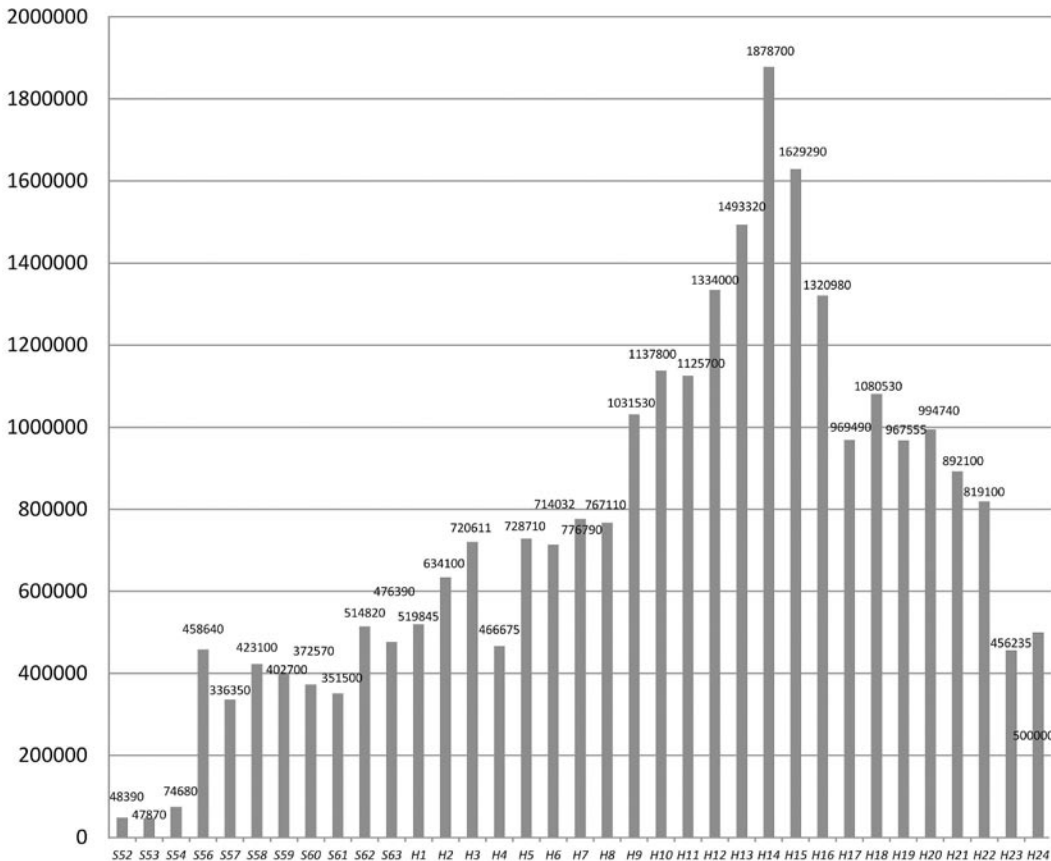
40年の歳月が流れた北総。「働くこと生きること」が北総の精神。この連載では、一作業班ずつ40年を振り返ってみたいと思う。第3回目は木工班。

3. 木工班

S52～H24年

H	利用者	12名
25	職員	4名
内	パート	1名
訳	利用者平均年齢	55.4歳

初年度からの売り上げグラフ



昭和53年までは木工班のメンバーは5名で、生産量が少なく売り上げも少ない。昭和54年よりメンバーが増え10名となり、仕事の幅も広がってきたため、売り上げが伸びてきている。製品としては平成2年までは竹製品が主力であったようだが、平成3年からは焼板製品の売り上げが大幅に上がり木工班の主力製品となっている。杉材を福田さんが焼き、皆が顔を煤だらけにして磨いた。根気のいる作業だが素朴な焼き板製品は現在まで変わらぬ人気商品であり、利用者を磨き職人に育ててくれた。そして平成7年からは福島の木材の

購入が始まり、花台も木工班の主力製品となった。買い出しでは山本さんを中心に利用者が交代で参加して、トラック一杯のケヤキ材やサクラ材を購入してきた。平成10年にはテーブル・座卓・ロクロ製品等の製作にも力が入り始め、100万円を超える売り上げとなっている。売り上げは平成14年度に最高額となったが、当時は東武コンコース販売が年3回あり、毎回売り切れてしまうほどであった。しかし、コンコース販売がなくなり、景気の低迷とともに、同じ販売場面でも以前よりも売り上げが減ってきている。平成23年度にいたっては新棟建築工事のため作業場が取り壊され、新作業場への引っ越しや片付け作業に追われたこともあり、売り上げが45万円まで下がっている。現在は新作業場での作業も軌道に乗り、製品の在庫は確保出来ているので、これから売り上げを伸ばしていきたいと思う。木工製品は消耗品と違って一度購入してしまえば長く使用できる物ばかり。いかに次も購入してもらえるか創意工夫しながら、お客様のニーズにあった魅力的な製品作りを心がけていきたいと思う。(木工班チーフ 高木)



園長コメント
 『焼き板磨き』は、この人たちの心を琢き続けた。銚子に程近いこの辺りには、漁港に水揚げされた魚を入れる木の箱作りが一つの産業として成り立っていた。当初その箱作りを頼まれたのだ。これはしかし、一年程で止めた。利用者には無理な仕事であった。次に辿り着いたのは焼き板磨き。これは当時の養護学校作業教育で多くの学校が取り組んでいたこと。木目のきれいな杉板をトーチで焼いて、その炭を落とすと木目が浮き出る。魚や動物の形に整える。ヒット商品は①郵便受け②鍋敷。当初は短時間で仕上がるような安易な物だったが、利用者は磨き力がついて大物に挑戦。その木目の由来をお客さんに説明する。感動して、早速、500円のこの焼き板を土産にしてくれた。磨いた本人は鼻高。この磨きに向き合って40年、心を琢き続けたこの人たちである。(武井)

街道をゆく 120

バリ島から

日本が見えた

(ヤポネシア日本の
水田こそ世界遺産)

武井 敏朗

僅か三泊、垣間見たバリ島研修の旅は終了。夜中にバリ島を発った飛行機は、4月22日(月)朝8時成田空港到着。仲間と別れJR成田線で小見川の自宅に向かう。車窓から新緑の北総大地。丁度、田植え時期と重なって一面に広がる水田。水が張られ早苗が薄く水面から顔を出している。まるで大きな湖の中を走っているような錯覚。ここは水郷。日本一の米作地帯である。毎年見慣れた春の風物詩。が、今年のこの車窓風景を「何て素晴らしい景色なこと」と、目を見開いて見直すこととなる。

バリ島はインドネシアの一つの島。面積は東京都の2倍程。赤道を越えた火山島。この島は「島に広がる田園風景や寺院の文化的景観」において2012年ユネスコ世界文化遺産に登録された。インドネシアはイスラム教の国だが、その中において80%がヒンズー教徒のヒンズーの



▲氏神様の横に立つ筆者。奥は棚田。中にヤシの木がなければ、日本の風景と同じ。4月19日 AM10:00。

島としてその歴史を刻む。熱帯区域に属するこの島は豊かな河川と肥沃な土に恵まれ、古代より水田稲作が盛んであった。しかも熱帯という気候条件は二期作、三期作を可能とした。水田。稲作は文字通り「水」が命。信州南アルプス山麓の水呑み百姓の倅である筆者は、両親が小さな棚田を大切に耕し稲を育てる姿の横で育った。昭和30年代のことである。早朝の朝露の中、田の水の様子を見に行くのがははの朝飯前の大切な仕事であった。「今年は雨が少ねーで思うように田に水が貯まらん」。母の嘆きが今も聞こえる。4月19日(金)朝。時差一時間(日本の方が一時間早い)。雨。気温30度。蒸し暑い。8時。日発。研修開始。

仲間13人を乗せたバスは郊外へ。やがて、農村風景の中を走る。

三日間のバリ島の道中風景。それは各家毎のヒンズー職と氏神様。ヒンズー職はしなつた釣り竿のような格好の竹の先に飾り物。道に向かつて垂れ下がっている。そして氏神様はその家の先祖の数だけ造るのか家々によってまちまち。財力の差が大きさもまちまち。

その民家の後に棚田が見えてきた。椰子の木がその棚田にアクセントを付けるように生えている。成る程二期作だ。片方は水田。青々と稲が伸びた地域。そして、稲刈りの終わった棚田地域。それらが、道中進むにつれて入れ替わる。

バリの案内本が歴史を越えて営々と守られてきたバリの棚田のことについて触れている。それは信州の昔の我が家の棚田がその村の約束事として「水」を管理していた理屈と同じなのだ。各川の流れに沿った棚田はその棚田を守る組合があり、組合長の元に厳密に二期作に対応する不文律の水の配分がなされていたこと。棚田を守り続けて800年の農民の苦心と形がユネスコ関係者の心を打ったらしい。

棚田は本来見せ物ではないが、そ



▲バリ島の特別支援学校を訪れた13人の仲間。4月20日 AM。

の芸術的な美しさに多くの観光客が訪れるようになった。それを目当てに棚田を見下ろす道々はお土産屋だらけ。我々は窓越しにその喧騒を眺めた。が、この棚田の美観も段々と「そうはいかない」気配があるらしい…。

そしてヤポネシア・日本。千葉のこの辺りは既に田植えが終わって見渡すかぎりの水田である。それが如何に美観であるか。バリの棚田も問題にならない。日本の至る所のこの水田風景こそ世界遺産。TPPなんかで決して失ってはならないヤポネシアの神聖な財産…。

今回はバリ島キンタマーニー特集。キンタマーニーという語音に興味を掻き立てられる諸氏はお楽しみに。(続)

廃用症候群予防法について

看護師 高根 悦子

手を使い、歩き、語る事が脳を活性化する。

桃太郎力をつける

老化を防ぎ、長生きする知恵として「よく手を使いましょう。よく人と話をしましょう。よく歩きましょう。」と言われますが、それは手・口・足の老化を食い止める事で脳まで老化が及ばないようにする為の知恵です。

これらを更に覚えやすくするために、家来を率いる桃太郎の話に例えて「犬のように歩きましょう。猿のように手を使いましょう。キジのように外に出て、人と対話しましょう。そうすれば、病気や老化という鬼を退治できます。」と。

これは佐賀大学医学部付属病院脳神経外科医の白石哲也さんの記事です。さらに病気になってしまったとき、痛みや治療に耐え、病気を克服するという病人役割を背負わされることとなります。これに立ち向かっていける人はいいですが、私は病人だから仕方がない、と身内や周りに依存してしまうと、リハビリなどの大きな障害になってしまうのです。病人役割は、一時的、一面的なもの。苦しんでいる自分を治すの

は、自分自身であり、他人ではないという主治医役割の意識を持つことが一番大事なのです。

基礎体力は足腰が丈夫であること

と思います。そこから病気に負けないからだに精神力が培われます。利用者の方たちとは今年度もウォーキングを続けていきます。ウォーキングの始まりは、Eさんの成人病がきっかけで、その後入園して体重増加したMさん、Iさんと増えていき、今は作業班全体で取り組むようになりました。園芸班のA・Yさんは、昨年からはじめ当初は気分によつては「きょうはいきません。」と答えることもありましたが、今では「はながさいちよるよ。きょうはこのいぬほえないね、ねちよるのかな？」と気分よく話しかけてくれます。陶芸班は声を掛けると同時に「さんぽだよ。」とH・Mさん、K・Eさんが皆に声を掛けてくれ、木工班はS・Kさんに「Jさんと手を繋いでね。お願いね。」と託すと「はいよ。」と顔つきまできりりとお兄さんになって、常に話しかけてくれるのでIさんも安定して歩いています。近隣の人とすれ違う時「こんにちわー。」とSさん、恥ずかしさで「わー。」になってしまうH・Tさん。

車が来ると、みんな「車だよ」。端によつてー。」と声を掛け合ってくれる。1kmに満たないコースでも春先は、水をたたえた田、夏の穂波、黄金の秋と思う存分四季を満喫できる田園のコース。

手芸介護班は、手を使つての作業と外へ出て歩く。を実感できる作業班。

集中しての手作業の気分転換としては、歩く事にはS・JさんやH・Mさんは積極的。N・Mさんは手を繋いで転倒防止しているが、お話しただけでは不満で、歌を歌うと一緒にリズムをとつてくれます。一番はテンテンでんまりでんまりから始まり、「まりと殿様」がお気に入り。T・Mさんも歌いながら歩くことが多いが、一緒に歌うと「うたわらないですよ。」という時も。それぞれの個性で、歩くスピードも様々だけど、歩く時の気分は皆が桃太郎という、老化を退治する主役です。



▲大門、なずな工房を背に田園の中を散歩するSさん、Iさんと看護師の高根さん。

みんなの広場

①「春だなあ」

林産班の作業場周りにはタンポポが沢山咲いている。晴れた日はタンポポを見ながら昼食をとります。昼食後の昼休み、Hさんが草むらに寝転がり気持ち良さそうに目を閉じていました。するとおもむろに起き上がってすぐ側にあつたタンポポの綿毛を採るとフーッと飛ばしました。程よい強さの息で上手に綿毛を飛ばすHさんを見て、春だなあと思うと同時にこのあたりにタンポポが多いのはこうして綿毛を飛ばすからかな?と思いました。

(林)



八重桜
とつとつとき三輪

八重桜 見事に咲きたる 園芸の

小さな背中 は八重子さん

金子

②『春』

北総も新年度が始まった。今年
は梅の開花は例年より遅かったよ
うだが、桜の開花は例年より早かっ
たようだ。4月1日、新職員を迎
えての記念撮影は完成したばかり
の新棟の前での撮影。一昨年度ま
ではここに枝垂れ桜があつたんだ
。そんな事を思いながらの4月
1日。

園芸班の前のボタン桜は毎年、
他の桜と比べて少し遅めの開花。
4月第1週、紙工芸班でも作業が
終わってボタン桜を見に行く。「う
わあ、キレイ！」Tさんの口から
真つ先に言葉が出た。ひらひら舞
い落ちる花びらのように、園芸班
のKさんが手をひらひらさせる。
Iさんはベンチに座り、缶コーヒー
を飲む真似。お花見気分であつた。

現在、紙工芸と林産の入り口に
ある椎の木の上に藤の花の蔓が巻
き、奇麗な花を咲かせている。「奇
麗な紫だね。林産の山にもあるよ。
Hさんが話してくれた。本当に見
事な藤の花で、とれるものなら一
房とって作業場に飾りたいくらい
だ。もうすぐ新緑の五月を迎える。
利用者と一緒にもうしばし、周り
の草木を愛でたい。」

(猪田)

③『今、思うこと』

入職して1ヶ月、嬉しい事もあ
れば、大変だと思ふ事もありまし
た。私の中では、Hさんとの関わ
りが難しく思いますが、焦らず、
ゆっくり関係を築いていこうと思
っています。この1年間、新人
なりに日々の頑張りを積み重ねて
いこうと思います。皆さん、よろ
しくお願いします。

(諏訪)



ご厚意に感謝



この度、日本財団を通じて、多額の配分金
を頂戴し、移送車両を購入させて頂きました。
安全運転に心掛け、利用者の暮らしの質の向
上の為に大切に使用させて頂きます。日本財団
関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。
ありがとうございました。

行事予定

6月は全園で林産班どくだみ採り応援月間

- 6月 10日 居室美化コンテスト期間 (10日~16日)
- 16日 韓国恩花学校姉妹提携記念日
※この週は韓国交流特別週間
- 18日 保護者どくだみ採り
- 29日 4施設バレー大会 (会場はふる里学舎)
- 7月 21日 夏の児童受け入れ期間開始
- 27日 北総の里の夕べ (笹川諏訪神社夏祭に合流)

集 記
編 後

キラキラと太陽の光を
浴びて新芽がきれいなこ
の季節。
職員室の一輪挿しには、

タンポポやホトケノザ・ペンペン草
と小さなかわいらしい草花が飾られ
ています。一輪の花を大切に……
園長がいつもおっしゃる大切な言
葉。買った花は華やかできれいです。
道端に咲いている草花は決して華や
かではないですが、素朴でかわいら
しく大自然の中で一生懸命に咲いて
いる印象で小さくても生き生きとし
ています。道端に咲いている小さな
草花は見ようとしなければ気付いま
せん。小さくても足元にちよこんと
咲いている草花をいつまでも気付い
けるようにしたいと思います。

今回も沢山の文章を寄せて頂き、
ありがとうございます。広報委員
になって今年で9年目になります
が、まだまだ至らない点ばかりで園
長や絵鳩課長に助けて頂きながらの
編集です。編集長の醍醐味は、原稿
を一番に読める事！広報紙が出来上
がった時のものすごい達成感！そし
て読んで頂いて感想を聞いた時だと
思っています。想いの沢山詰まった
広報紙をぜひ沢山の方に読んで頂け
たら嬉しく思います。

(篠塚)